

郵便



知新聞

第十二號

明治壬申八月

新貨三錢



東京横山町三丁目

太田金石衛門



門 18
 號 407
 卷 3

九例

遠近の人民互に性情よく相通し事理よく相達するは新聞紙の如きは
 故に西洋諸國苟も文明の名あるは地を以て必を新聞紙局に設
 ありて國內國外を論ぜん九百の事務を網羅し保せて奇事異聞瑣
 話常談を采用し以て日小刊し月小刊して博布き各ゆく幾んと家
 喻戸曉く小説これ概あれハ國人甚くあれを便とせり今爰小郵便
 此報を刊行するも廣く遠近の子我我せ大ひは内か此情を通し善
 古今此変を知りて世に裨益あるべし我我とあり蓋し瓶水の
 氷我見て天下此寒を知るべし小冊子と見るもの亦當今子情の
 一斑と窺ふべし

郵便報知新聞第十二號 明治五年申八月

○郡馬縣ヨリ報知博覽會工差出物品ノ事ニ付伺書畧
 兼而御布告相成候澳國博覽會江御差出之品類夫々取
 聚候内當國伊香保山中ニ於テ捕獲候慈悲心鳥一羽有
 之候右者生ナカラ差送り候ニハ途中人夫モ相掛リ去
 迎御達ノ通腸肉其外脱法候ニハ當縣下ニ右手術熟練
 ノ者無之差支候儀ニテ此上如何取斗可然哉至急御報
 有之度此段御問合及ビ候云々
 ○兵庫縣ヨリ報知

淡川神社遷座に付福永町の娼妓揃此紅装にてあれと
 送護せし後來祿れし娼妓を供奉せしむるは不審
 とあるすやと或人の説あり甚しき妄言あり抑遷座ハ
 神碑の起り新築の街本社よきて境内のみとあり
 然るは時境内へ参詣の人の入るありと許さるる
 ハ氣向勅使を始め武郡寮官矢の善く知る事あり其後
 一ありを経て市中諸所より遷座を祝して献儀の供物
 と曳き來りし子女雜選頗る甚し此時福永町よりも献
 儀有て娼妓輩も出りし娼妓ハ穢れしりと云ふ又説あ
 りども官許と受け公然と業を営むは均しくお

れ平民ありあれと穢れしりとて神社参詣を許さる
 る此理あるを知りて畢竟其旨の説はる矣と識る
 事の妄言あり今爰其非を辨知する事ありし
 ○或日前鳴驛頭寮中ノ諸士へ談話アリニニ西洋各
 國政府ノ驛遊院ニテハ郵便物ノ紛失等ヲ辨償スト彼
 ノ眞實ノ規則ヲモ知ラスニテ或ハ妄説ヲ新聞紙ニ記
 シ或ハ嗷然語レルモノアリ故ニ余見下等ノ疑惑ヲ防
 カシ為メ千八百七十一年明治四年英國政府ニテ刊行セル
 利太郵便案内ト題スル書中ノ雜則第一ヶ条ヲ茲ニ
 譯スヘシト左ノ一則ヲ譯セラレタリ僕其席ニ在リテ

其譯草ヲ得シニヨリ之ヲ左ニ録シテ世ノ諸君子ニ示ス
 郵便役所ハ書籍其外トモ郵便ヲ以テ送レル物品ノ
 損害ヲ辨償セス故ニ人々必ス損シ易キ様ノ物品ハ
 能ク堅固ニ手當セカレハ郵便役所江差出ス、カラ
 ス又書状其外郵便ニ差出シタル包類ノ届ケ違ヒ送
 リ違ヒ紛失等ヨリ生スル不都合并ニ損失ヲ辨償ス
 ル事无シ

○横濱より報告

近頃横濱より来りしアメリカの書林某あり其友
 達の久しく日本に居る者より必しとあるを傍りて以て

「アメリカに於ては近來日本の洋判殊の外高き且づら
 三四年の内又改まりて風俗をとりけて昔よりのお
 めけ、悉くおくなり家々衣履皆も大半ヨウロツビ
 風あり多し病院と建て盛し学校と作り、洗滌を他
 造船場と興し蒸気船郵便信機ホの便利を備へ、柔
 西洋各國又異なるあり、其々々の學向ハ英書と
 すと聞き是誠又好機舎あり、迷々日本に返りて
 をかび、高きあり、思ひ俄に思ひ立て、後
 来せし、存おの系、あつてまじ、あらく洋判の百分一
 ともゆらぬ、あつて失望し、元來商の法は人先立

て機を^ま見出す^はある^るあれども^はやま^りて^はあ^らうと^もい^はれ^ばと^も

第一号に載^りたる本多氏より前島氏へ送り書状^に

「サンフランシスコに於て見れを^は僅^くアメリカの入口の

港^にあれども^も製^造及^び文物^の百般^のの^事業^に到^るまで^のその^盛

んある^る日本^にいつ^つ一時^に推^量せ^しより^も天地^の

違^ひにて^は突^くおどろ^きの^ゆあり^しの^ゆある^は今^に此^の書

林^に存^在の^事況^をて^は失望^せり^と云^ふ其^の歎^息は^ちう

ひたる^は哀^し概^すづ^きの^ゆあり^しや^と云^ふ或^人の[「]アメリ^カの^支林^と云^ふる^は一^途に^日本^近

時の評判を聞て已^まの^如き^天文^学、地^理学^の勿^論

備^へて^はい^らう^とい^はれ^ば皆^の道^の学^問あり^し政府^の官^吏

ある^る望^みの^人ハ^法律^学、経^済学^のあり^しと^も学^びて^は山

銅^山、鉄^山、あ^らう^と志^を人^ハ鑛^山学^と一^途に^をす^ると

ハ^建築^学、船^乗り^の航^海学[、]軍^事学^{あり}、百^姓の^人

農^学あり^し、医^学、算^学、化^学、機^械学^{あり}、商^人に^成る^る

も^も職^人に^もあ^らう^とも^も皆^の夫^のの^学問^{あり}て^は知^年より^も学

校^に入^りお^のく^その^藝術^を脩^業し^て智^恵を^みづ^き、工

夫^をり^づく^する^と思^ひし^し日本^にも^も十^餘年^前佛^法

流^りて^はより^も上^下一^回あ^れを^は伝^へて^は代^ハ假^の世^{あり}

とひつすば多きを執り因果を説き或ハ方便ありて
 唱へ怪しき術を以て愚人を欺きまじく人心を愚昧
 と導くやうなありけ巫祝山伏の類家相人相祈禱者
 あど種々の妄説先祖代々骨髄又満地たる人民あり
 そのうへは是迄學問といつては迂遠なる漢字の多きて
 数万のむづかしい字を讀みかゝつて性理を識するに
 是四角の字で文をかき詩を作るとあるのよといふ
 ゆる學者といふ偏物もあるまでにて新智を蒙明す
 るかどいふ事なくたまふ天然の奇才ありて珍なる
 しき新工夫の機械等作り出す者何れも妖術ありと

して上より是を罪を行ふてあて政教しりてかく
 人民の知識の開けぬやうな古来より仕掛たりて風
 習あれを改めよ
 序一節あれを以てさう急なハあうく真の文明開化
 の域に進みかゝるのわけを察せざるやうに
 の如き損失をいだける

○栢井町の報告

爰内追々開明に進み郷学校三十ヶ所を創る尚病院致
 して所々興立の目論見方今もあう

○筑摩縣の報告

信州筑摩郡刈谷系町村伊ち良外六人のゆは強盜とさ
し押へ奇特のあしむ付賞典を賜へたりとぞ

○新治縣より報知

同縣開懸以來囚獄のゆは二百人餘ありて牢中にて病
死せりゆは只一人のみ蓋し牢中を日々掃除し毎月六
度沐浴せしめ暑中の臭氣を拂したる善料を用ひりれ
ば穢氣なきゆへ病は罹りゆは少し若病ゆはのあれを
牢医に命し懇懇と治療をかしゆへゆは如くたりたる
あり抑人民今の文明の世は生まれゆへと雖も縣下偷令
まど令く決洽せざるゆへ頑陋を免さずゆへ大辟と

陷りたるゆはありゆへ其罪を悪かき人を惡ますゆへ
囚獄掛りのりゆへ説諭し長官も時々親しく牢中を見
廻る云々

囚獄は陷りたるゆはと憐むの善多なる固より言と
待りゆは然れども更し望むべくは人民益々善く進み
囚獄は陷りゆはありゆへ英人某氏の説は大
辟を臨りゆはは都會の人民より僻地の人民更し
多し蓋し之は不景無識より惡の惡しむるを知りざる
ゆはハ人民として善く進みゆへ先づ先づ進みゆ
るを第一とす

○相川翁の報告

佐渡國雜太郡齋藤日蓮宗元妙満寺僧日遂平生謹慎の
り此より近隣のりめにも親切いあり幸甚せる農民
と助け齋寺の命ありうるも速く布令を守り名利
を去らばその外種々奇特の行ひありりれバ官より賞
典を賜くたうと哉

浮屠氏中日遂の如き君子あり然るも今日文明の視
を唱るの洋学者流を見るも其云君子として其中実
に貪鄙あぶり此世にあられり是世に害ありと得て
日遂の如き言行一致の君子をして洋学に進まめ

バその世に切なる如くや或る人云く西洋の學ハ
切利を主とす故に日遂の如きりれかあ一と嗚呼斯
る妄説を唱るりれ西洋古今の大人君子の傳をえて
尚ほ恥せざる乎

○支那新使抄譯

日本國と支那と無て交結びたる和親條約を改定せん
ためよ末り日本使節ハ現今日本よりアメリカ、ヨウ
ロッパの各國へ送られたる大使の帰國の後速く他の
使節を支那へ送らざるがためよ其下扱をさせり
以つて日あり支那へ其後多分言語上より

望通の豪華をたゞよおめてむがうゝるあるまじく
ありしものありなる商人軍器を豪買するこゝなむび
よ條約才二條を載たる互々相立接すべしとの契約の
るあり我等ありしちのちのち条ハ支那と他のちのち
よまぢがひ等あませし時ハは方より和順の取扱を
かきまべしといふアメリカ條約中のちのち条と回趣意を以
て論すべし別々契約をありて争擾の節ハ等を出して
か勢すべしといふの程ハあふぐれもあり

報知新聞第十二號終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣ハ遠く隔る國々物物を互にお通せしめ且府下
不生す亦細大を實地相知しめんと去依を稱する事該ハ不及申善行の賞譽
暴徒ヲ捕縛撥械産物の新設の替絲織紡漆器陶器米穀菜茶其他の諸品製造
耕作の多寡豊凶霖雷風水火の災難を暖氣候を速いまで少く憂り多から
皆夫々に筆記して聊文體を飾を加へむ時々載て是を修し發見人及び賣
弘所不送り越し給はん事候希ふ
一郵便報知新聞一冊價新貨三錢毎月五号宛出版
當時發見号より先キ廿冊分引受做向を一割引
同四十冊分ハ一割半引
一ヶ年分引請の向ハ二割引

右之通割合相定前全額郵便債共清取候共每号發見順序代逐郵便ヲ以て居届可申候
東京横山町三町目
發見人 太田金右衛門

